

「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 3 年 4 月 14 日

事業名称		災害対策事業費 [災害対策用備蓄品整備事業]										
予算科目	款	9	消防費	項	1	消防費	目	4	・災害対策事業費 ・新型コロナウイルス感染症対策事業費		事業番号	1・2
事業の種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)											
担当部署・課長名		防災安全 課				災害・防犯 係		課長名		東 栄一		
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号		4 - 6		
【施策名】 防災・防犯体制の推進								総合計画書 (ページ)		93		
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。					① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）						
	災害時に避難生活を必要とする市民					災害による避難所生活者数 → 15,301人（当市避難所生活者最大数）						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]					② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）						
	備蓄食料・資機材の確保及び適正管理により、避難所生活者の健康が維持できる。					①避難所生活者数に対応する備蓄食料数 (15,301人×7食＝107,107食以上) → ②避難所生活の向上に寄与する資機材の配備数 (必要に応じて配備)						
2 指標の推移	③ そのために何をしましたか。					③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標）						
	①備蓄食料の更新（備蓄目標数に達しているため、消費期限に基づく更新管理を実施） ②新たな資機材の配備 ・新型コロナウイルス感染症対策用資機材一式の購入					①備蓄食料の更新 ・アルファ米(白米)9,750食、(おこわ)3,750食 ・おかゆ450食 ・乾パン2,000食 ・クラッカー 2,000食 ・ビスケット8,080食 ②新たな資機材の配備 ・新型コロナウイルス感染症対策用資機材一式（消耗品一式、蓄電池、備蓄コンテナ） ・災害対策用テント						
3 経費	事業費（実績）		単位	各種テントプライベートルーム		当該年度		成果目標				
				平成30年度実績	平成31年度実績	令和2年度実績		令和3年度目標		令和4年度目標		
	対象指標	①の数値	人	15,301	15,301	15,301						
	成果指標	②の数値	食	①109,604 ②20台	①109,604 ②30,848枚 (生理用品、おむつ延枚数)	①109,604 ②32か所一式						
	目 標	②の目標値										
活動指標		③の数値		110,410	110,410	110,410						
3 経費	財源	一般財源		円	3,089,306	3,898,626	71,265,111		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、 8,380,000円 時間単価は、 4,300円 で計算してください。 【算出根拠】平成31年度決算数値。 (退職手当組合負担金、共済費も含む。)			
		特定財源（国・都・他）		円			65,568,000					
		（うち受益者負担）		円								
				円								
	人件費（目安）	所要人数(再任用以外)		人	0.5	0.5	0.5					
		所要人数(再任用)		人								
		職員人件費(再任用以外)		円	4,122,000	4,155,000	4,190,000					
職員人件費(再任用)		円										
事業費＋人件費		円	7,211,306	8,053,626	75,455,111							
4 環境変化等	(1) 開始年度		28 年度									
	(2) 環境の変化											
東日本大震災等の災害の教訓を踏まえ、被災者の健康を維持するために「避難所の質の向上」を目的とした、避難所運営ガイドライン（平成28年4月 内閣府）が策定された。これまでも避難所生活に係る備蓄食料や運営資機材の配備を進めてきたが、感染症対策を含めたよりいっそうの避難所の質の向上に向けた取組みが求められている。												

事業名称	災害対策事業費〔災害対策用備蓄品整備事業〕			
担当部署・課長名	防災安全	課	災害・防犯	係 課長名 東 栄一

5 市民等 の意見	この仕事に関して、令和2年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	近年の地震や風水害の影響により、市民の災害備蓄に対する意識は徐々にではあるが年々高まっている。市が避難所用として備蓄している食料や資機材の量や内容についての関心も高くなってきており、また、各家庭で食料品や生活必需品等を備蓄している市民が増えてきている。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☐ 取り組んだ	取組手法：		
	☒ 取り組まない	【取組手法の種類】		
	①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
	(2)令和3年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点			
	市で備蓄している食料及び資機材は、避難所生活者を想定したものであり、東京都の想定では震災後も自宅で生活する市民が圧倒的に多いと言われていることから、市民は、自助のため、各家庭において災害に備えた食料や生活必需品等の準備をしておくことの周知を引き続き図っていく必要がある。			
7 課題	(1)令和2年度に課題とした内容（「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題（3）を転記）			
	継続して備蓄食料・資機材の管理を徹底していく必要がある。 引き続き市民へ備蓄食料について認識を深めてもらい、自ら災害に備えて食料等を備えてもらえるようにする。 要配慮者やアレルギー持ちの方を対象とした備蓄食料について検討する。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和2年度に実施したこと。			
	年度末で賞味期限切れを迎える食料品について、過不足が生じないように入替作業を実施した。 市報や市ホームページを通じて、市民へ備蓄食料について啓発するとともに、地域の防災訓練等に参加し、各家庭で行う日常備蓄を中心に自助の重要性について広報した。 新型コロナウイルス感染症対策として、発電機やパーテーション等の各種資機材を配備した。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）			
	継続して災害備蓄品等の管理を徹底し、生活の質の向上にむけた取組みを進めていく。市民へ災害備蓄に関する認識を深めてもらい、自ら災害に備えてもらえるようにする。			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。）			
	施策名： 防災・防犯体制の推進			
	☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）			
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など）			
	☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止			
	【取組内容】			
	①備蓄品管理台帳の随時更新を徹底する。 ②期限切れを迎える食料の入替を行い、生活の質の向上に向けた資機材の配備について検討する。 ③個人で災害備蓄をしてもらうために、市報及び防災訓練等行事での広報を行う。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	①市内各備蓄コンテナ・倉庫の定期的な点検を実施し、台帳との整合性を図る。 ②防災意識のある人となない人との差が大きいため、防災意識を啓発する行事や広報を今後も継続して実施する。 ③他市の備蓄状況や、市民のニーズ等を踏まえ、新たな備蓄品等の配備について検討する。			